

各測定所における環境試料中の核種分析調査結果 (環境放射線等モニタリング調査)

大気浮遊じん

放射化学分析

単位: mBq/m³

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	平成31年4月 - 令和2年3月		平成28年4月 - 平成31年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND	ND - 0.0011	ND	ND - 0.0045	ND	ND - 0.0026
竜飛岬	ND	ND	ND	ND - 0.0020	ND	ND
佐渡関岬	ND	ND	ND	ND - 0.0014	ND	ND
越前岬	ND	ND - 0.0011	ND	ND - 0.0015	ND	ND
隠岐	ND	ND	ND	ND - 0.0026	ND	ND
蟠竜湖	ND	ND	ND	ND - 0.0015	ND	ND
檜原	ND	ND	ND	ND - 0.0039	ND	ND - 0.0038
対馬	ND	ND	ND	ND - 0.0013	ND	ND
五島	ND	ND	ND	ND	ND	ND - 0.0013
辺戸岬	ND	ND	ND	ND	ND	ND - 0.0015

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して、測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをブランク値として、測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	H31/4/4-6/30	No.8	13200	(< 0.006)	(< 0.005)	2.6±0.08	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/6/30-10/1	No.8	14100	(< 0.008)	(< 0.006)	1.5±0.06	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R1/10/1-12/27	No.8	13200	(< 0.01)	(< 0.006)	2.9±0.16	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/27-R2/4/2	No.9	14700	(< 0.008)	(< 0.005)	2.2±0.06	(< 0.002)	0.0011±0.00032
竜飛岬	H31/3/29-6/28	No.8	13600	(< 0.009)	(< 0.006)	3.2±0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
	R1/6/28-9/27	No.8	13700	(< 0.008)	(< 0.006)	1.8±0.07	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R1/9/27-12/27	No.8	13300	(< 0.008)	(< 0.006)	3.2±0.17	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/27-R2/3/27	No.9	13400	(< 0.007)	(< 0.006)	2.6±0.07	(< 0.002)	(< 0.001)
佐渡関岬	H31/3/28-7/1	No.8	15000	(< 0.007)	(< 0.006)	3.4±0.08	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R1/7/1-9/30	No.8	14900	(< 0.008)	(< 0.006)	2.6±0.07	(< 0.002)	(< 0.0008)
	R1/9/30-12/26	No.8	13800	(< 0.008)	(< 0.006)	4.2±0.17	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/26-R2/3/31	No.9	15300	(< 0.007)	(< 0.006)	2.9±0.06	(< 0.002)	(< 0.0009)

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをプランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
越前岬	H31/3/5-6/26	No.8	16800	(< 0.007)	(< 0.005)	3.2±0.07	(< 0.002)	(< 0.0008)
	R1/6/26-9/27	No.8	13900	(< 0.008)	(< 0.006)	1.9±0.07	(< 0.002)	0.0011±0.00032
	R1/9/27-12/23	No.8	13400	(< 0.009)	(< 0.005)	3.8±0.18	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/23-R2/3/19	No.9	13800	(< 0.008)	(< 0.006)	3.2±0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
隠岐	H31/3/22-6/28	No.8	14300	(< 0.007)	(< 0.005)	3.9±0.09	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R1/6/28-9/27	No.8	13800	(< 0.008)	(< 0.006)	2.1±0.07	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R1/9/27-12/26	No.8	13500	(< 0.009)	(< 0.006)	3.9±0.17	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/26-R2/3/19	No.9	12900	(< 0.008)	(< 0.006)	3.7±0.09	(< 0.002)	(< 0.002)
幡竜湖	H31/3/20-6/21	No.8	13400	(< 0.007)	(< 0.006)	3.2±0.09	(< 0.002)	(< 0.001)
	R1/6/21-9/27	No.8	14000	(< 0.008)	(< 0.006)	1.9±0.07	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/9/27-12/23	No.8	12400	(< 0.009)	(< 0.006)	3.8±0.19	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/23-R2/3/23	No.9	13300	(< 0.007)	(< 0.006)	3.4±0.09	(< 0.002)	(< 0.002)

大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
檜原	H31/3/18-6/24	No.8	14100	(< 0.008)	(< 0.006)	3.6±0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
	R1/6/24-9/17	No.8	12500	(< 0.008)	(< 0.006)	1.4±0.08	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/9/17-12/9	No.8	12300	(< 0.01)	(< 0.006)	4.2±0.22	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/9-R2/3/16	No.9	15000	(< 0.008)	(< 0.006)	3.6±0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
対馬	H31/3/5-6/25	No.8	17100	(< 0.006)	(< 0.005)	3.2±0.07	(< 0.002)	(< 0.0008)
	R1/6/25-9/20	No.8	13100	(< 0.008)	(< 0.006)	1.8±0.08	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/9/20-12/17	No.8	12200	(< 0.009)	(< 0.006)	4.5±0.22	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/17-R2/3/12	No.9	12300	(< 0.008)	(< 0.006)	3.5±0.10	(< 0.002)	(< 0.002)
五島	H31/3/1-6/19	No.8	16300	(< 0.007)	(< 0.005)	3.3±0.08	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R1/6/19-9/24	No.8	15000	(< 0.007)	(< 0.006)	1.8±0.07	(< 0.002)	(< 0.001)
	R1/9/24-12/19	No.8	13100	(< 0.009)	(< 0.006)	4.7±0.20	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/19-R2/3/10	No.9	12200	(< 0.01)	(< 0.007)	4.1±0.10	(< 0.002)	(< 0.002)

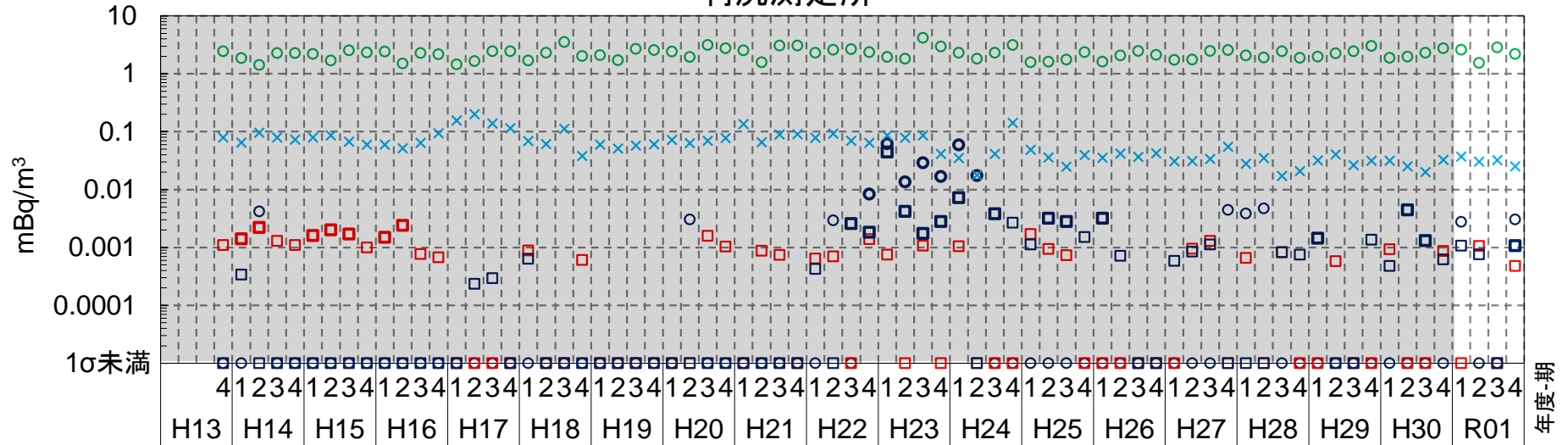
大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

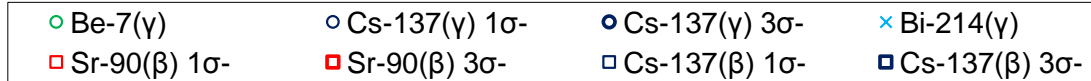
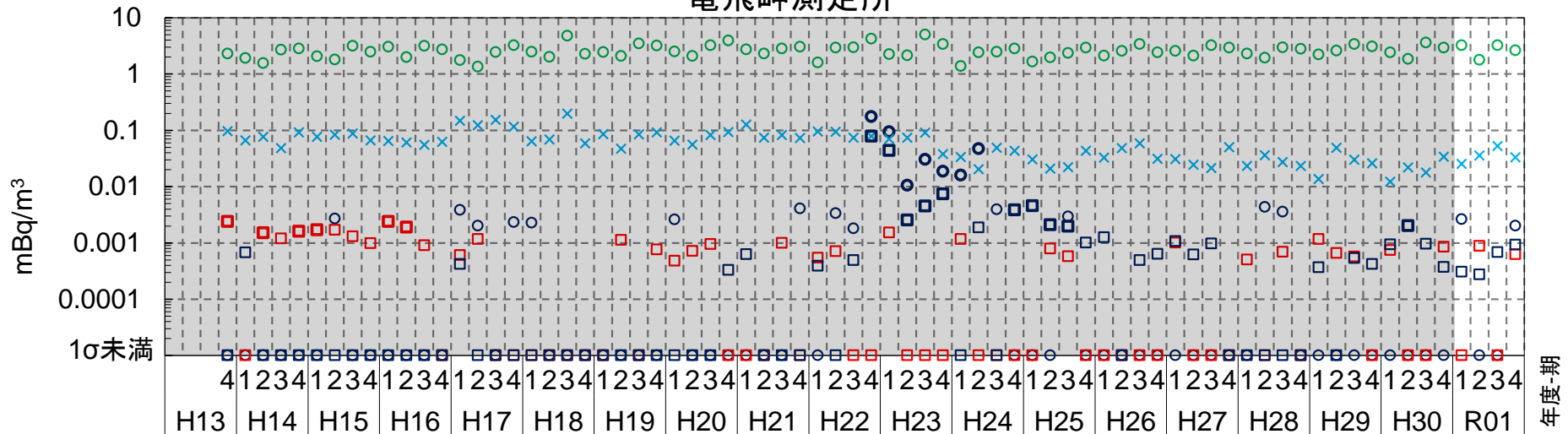
採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m ³)	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
辺戸岬	H31/3/4-6/24	No.8	17100	(< 0.007)	(< 0.005)	2.7±0.07	(< 0.002)	(< 0.0009)
	R1/6/24-9/17	No.8	12800	(< 0.01)	(< 0.006)	1.1±0.08	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/9/17-12/9	No.8	12000	(< 0.02)	(< 0.006)	3.1±0.22	(< 0.002)	(< 0.002)
	R1/12/9- R2/3/2	No.9	12900	(< 0.009)	(< 0.008)	4.5±0.12	(< 0.002)	(< 0.002)
ろ紙 No.8 Lot. 80816251 (減衰補正日)			-	(< 0.06) Bq/試料 (H30/9/19)	0.050±0.012 Bq/試料 (H30/9/19)	-	0.034±0.0066 Bq/試料 (H30/8/22)	0.021±0.0048 Bq/試料 (H30/8/22)
ろ紙 No.9 Lot. 90920251 (減衰補正日)			-	(< 0.2) Bq/試料 (R1/10/16)	(< 0.09) Bq/試料 (R1/10/16)	-	0.039±0.0073 Bq/試料 (R1/10/3)	0.019±0.0047 Bq/試料 (R1/10/3)

大気浮遊じん

利尻測定所



竜飛岬測定所

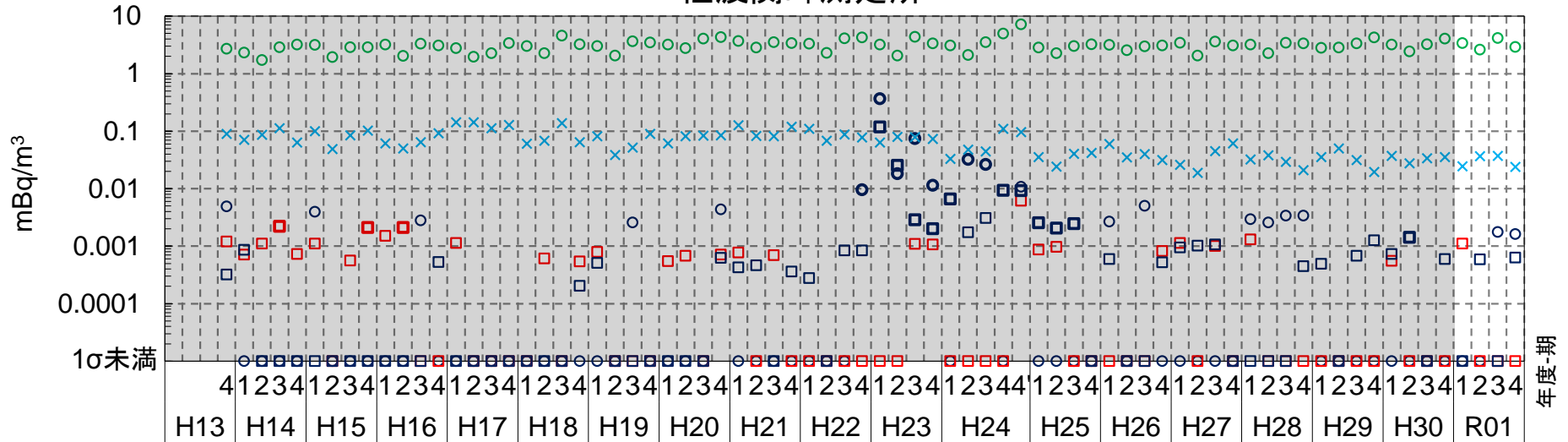


平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

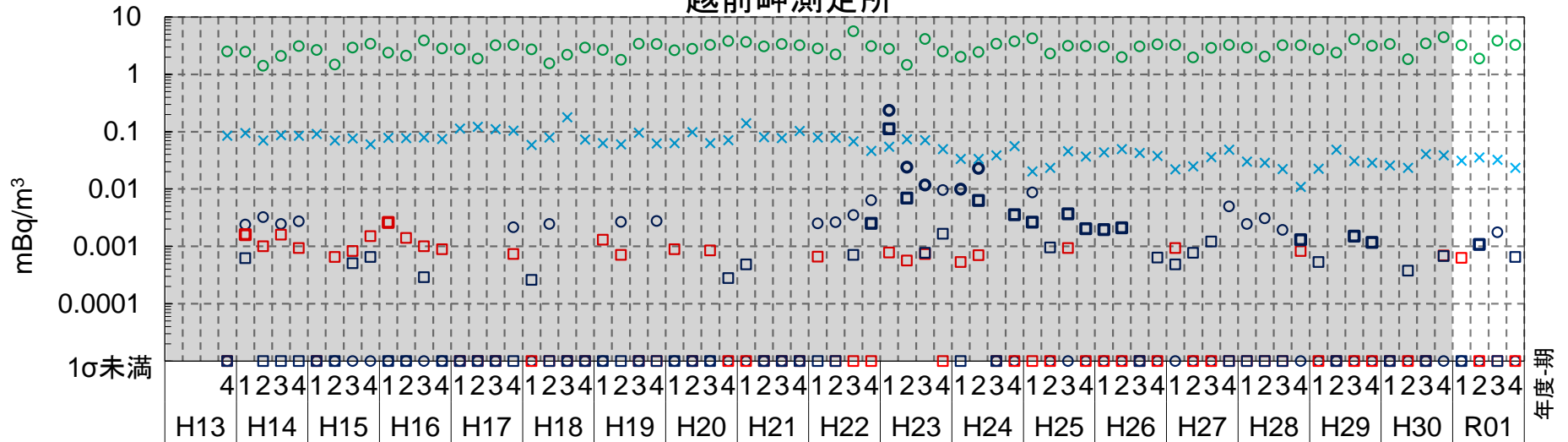
平成23年度第1四半期から令和元年度第3四半期のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

大気浮遊じん

佐渡関岬測定所



越前岬測定所



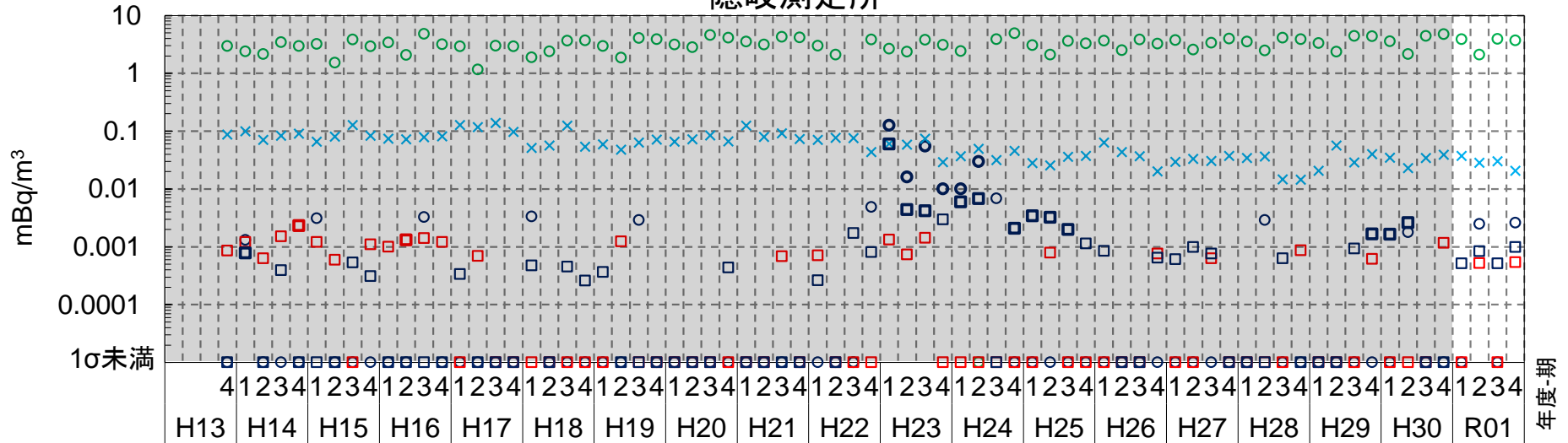
○ Be-7(γ) ○ Cs-137(γ) 1σ- ● Cs-137(γ) 3σ- × Bi-214(γ)
 □ Sr-90(β) 1σ- ■ Sr-90(β) 3σ- □ Cs-137(β) 1σ- ■ Cs-137(β) 3σ-

平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

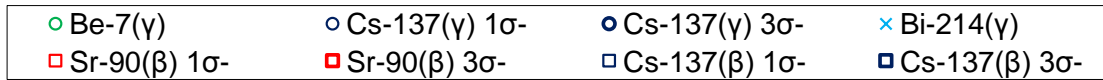
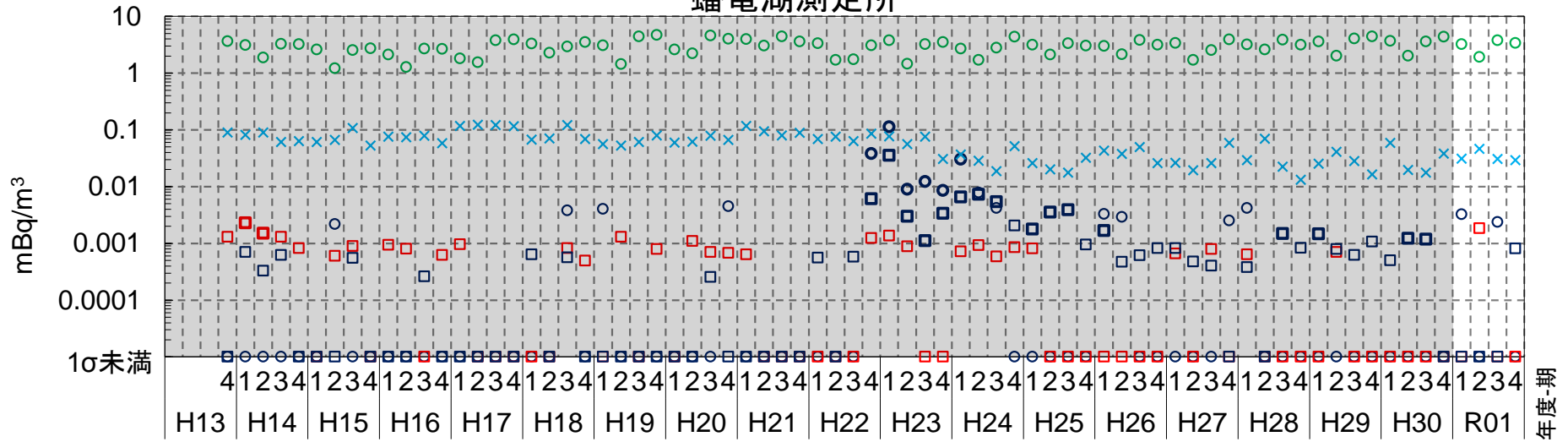
平成23年度第1四半期から令和元年度第3四半期のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

大気浮遊じん

隠岐測定所



蟠竜湖測定所

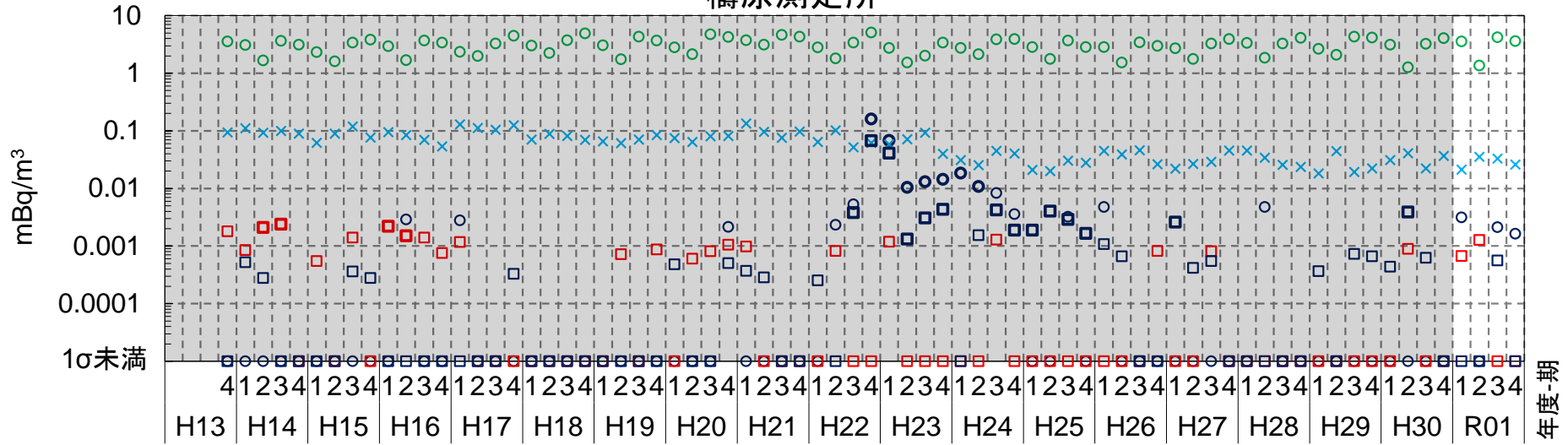


平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

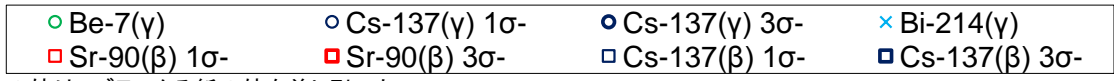
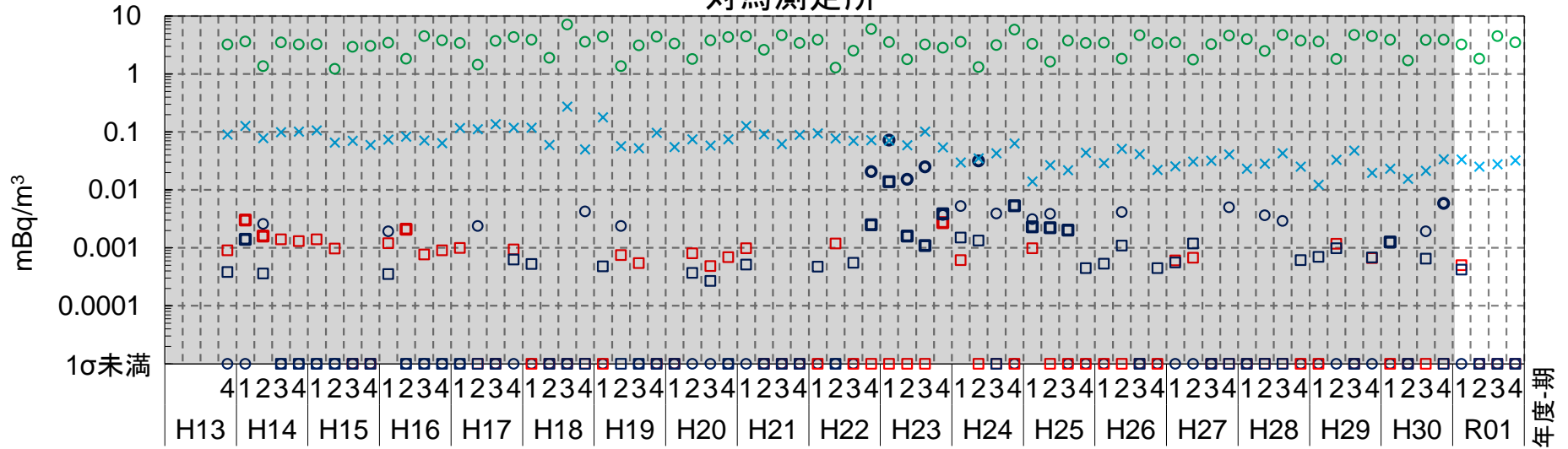
平成23年度第1四半期から令和元年度第3四半期のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

大気浮遊じん

橿原測定所



対馬測定所

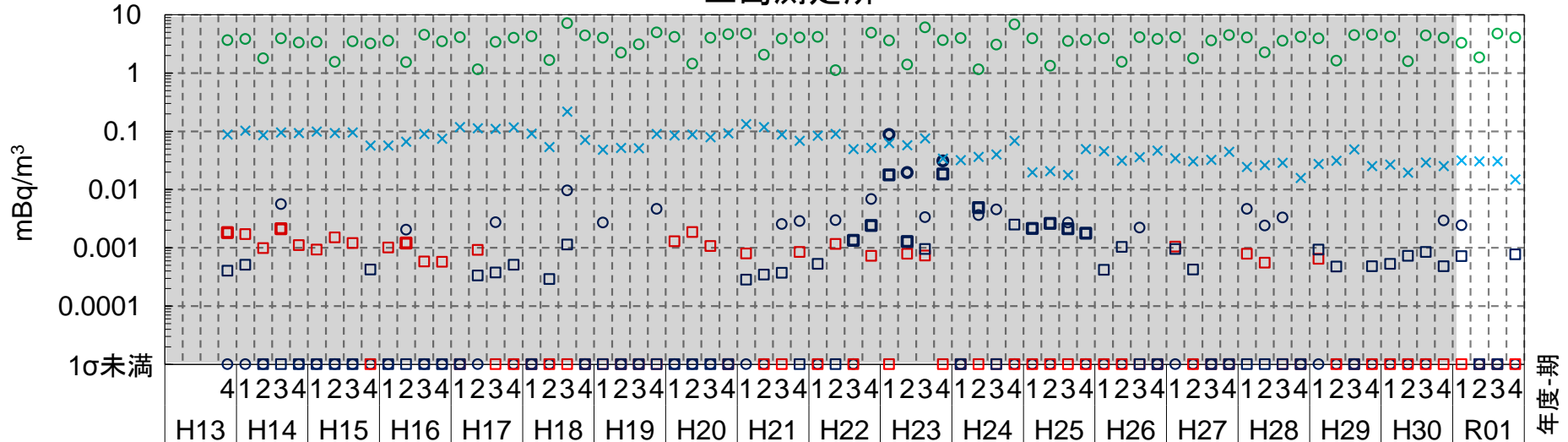


平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

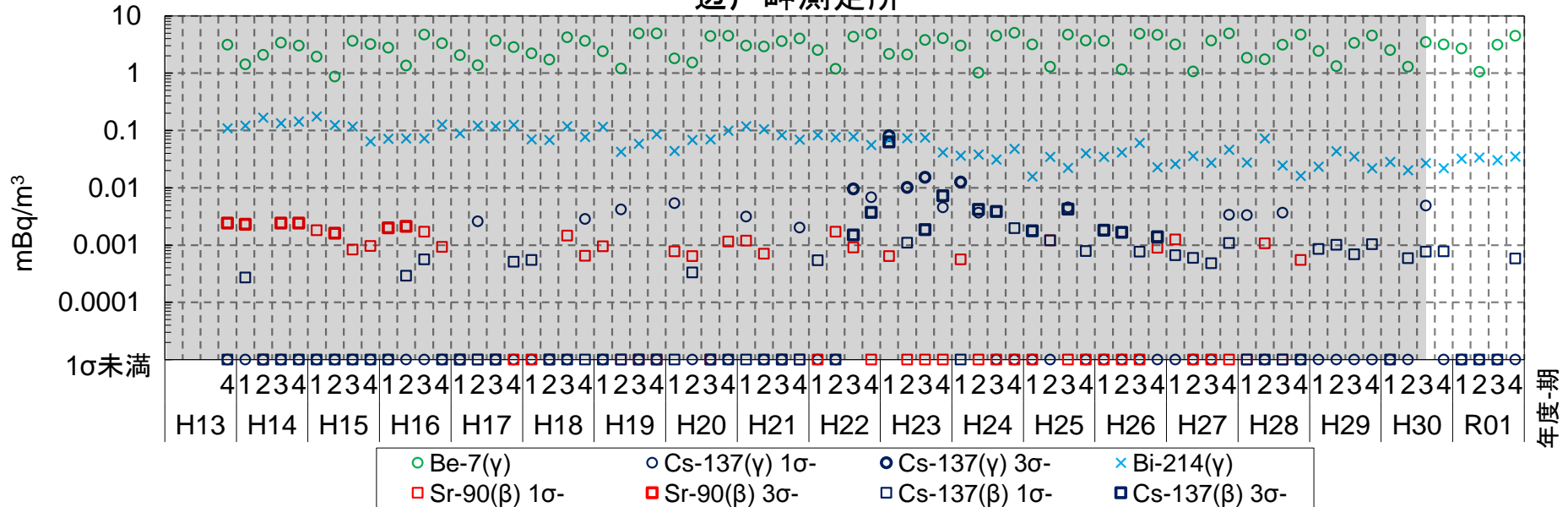
平成23年度第1四半期から令和元年度第3四半期のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

大気浮遊じん

五島測定所



辺戸岬測定所



平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクロ紙の値を差し引いた。

平成23年度第1四半期から令和元年度第3四半期のCs-137の値は、ブランクロ紙の値を差し引いた。

大気降下物

放射化学分析

単位: MBq/km²

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	平成31年4月 - 令和2年3月		平成28年4月 - 平成31年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND - 0.11	ND - 0.042	ND - 0.13	ND - 0.12	ND - 0.29	ND - 0.23
佐渡関岬	0.057 - 1.2	ND - 0.047	ND - 0.77	0.027 - 0.12	ND - 0.30	ND - 0.16
隠岐	0.056 - 0.20	0.027 - 0.058	ND - 0.26	0.029 - 0.13	0.12 - 0.76	ND - 0.15
五島	ND - 0.12	ND - 0.043	ND - 0.14	ND - 0.047	ND - 0.12	ND - 0.098

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して、測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

大気降下物

(単位: MBq/km²・3ヶ月)

採取地点	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	H31/4/4-6/30	(< 0.08)	(< 0.06)	170±1	(< 0.05)	0.042±0.0083
	R1/6/30-10/1	(< 0.07)	0.053±0.017	280±2	0.055±0.016	0.036±0.0084
	R1/10/1-12/27	(< 0.09)	(< 0.06)	200±4	0.11±0.020	(< 0.03)
	R1/12/27-R2/4/2	(< 0.08)	(< 0.05)	200±2	0.080±0.022	0.027±0.0076
佐渡関岬	H31/3/28-7/1	(< 0.09)	0.092±0.018	260±2	0.057±0.017	0.047±0.0086
	R1/7/1-9/30	(< 0.09)	0.059±0.018	170±2	0.11±0.019	(< 0.03)
	R1/9/30-12/26	(< 0.2)	(< 0.08)	370±7	1.2±0.034	0.037±0.0091
	R1/12/26-R2/3/31	(< 0.1)	(< 0.06)	460±4	0.11±0.018	0.037±0.0083

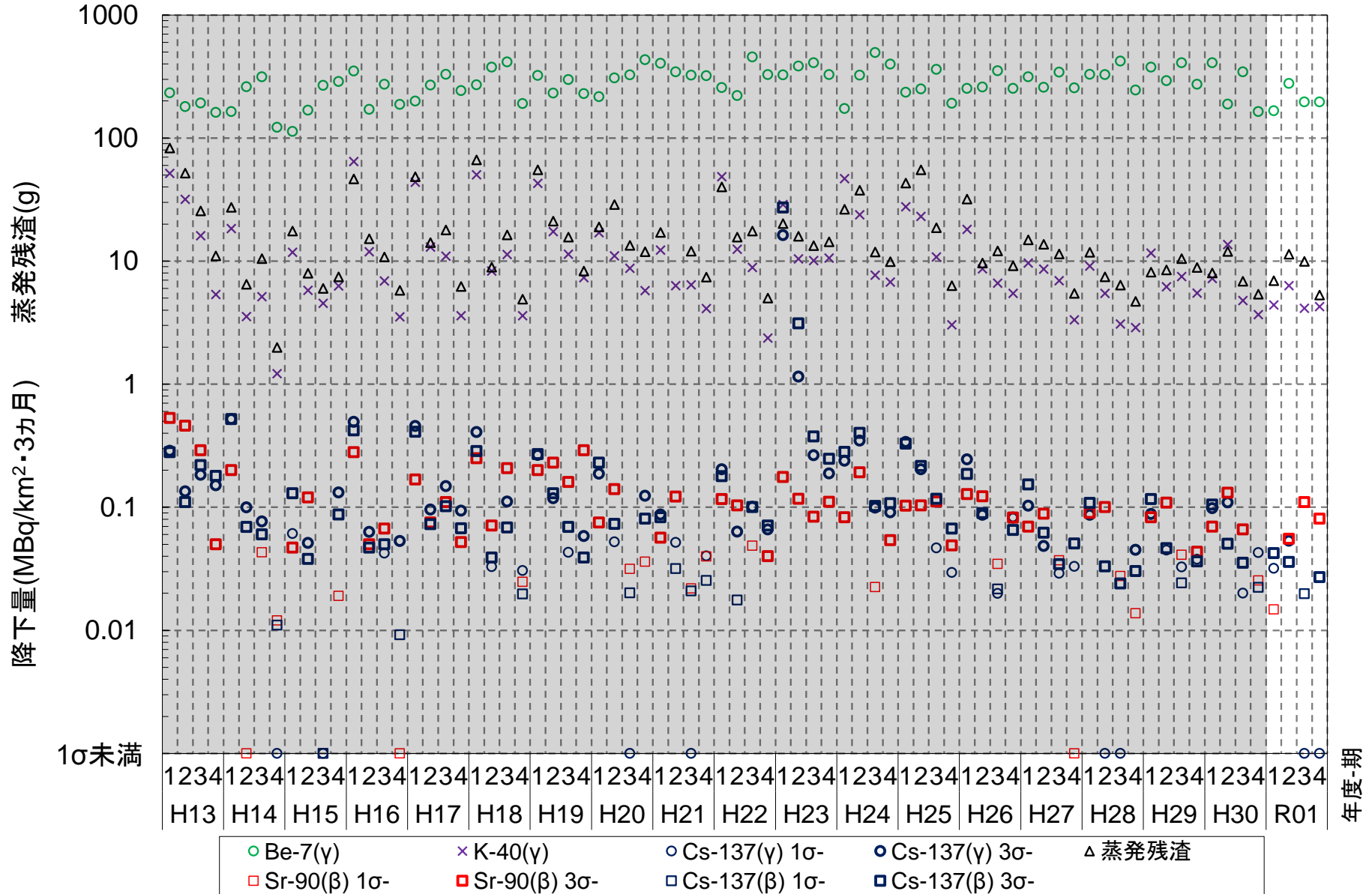
放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。
 測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。
⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

大気降下物

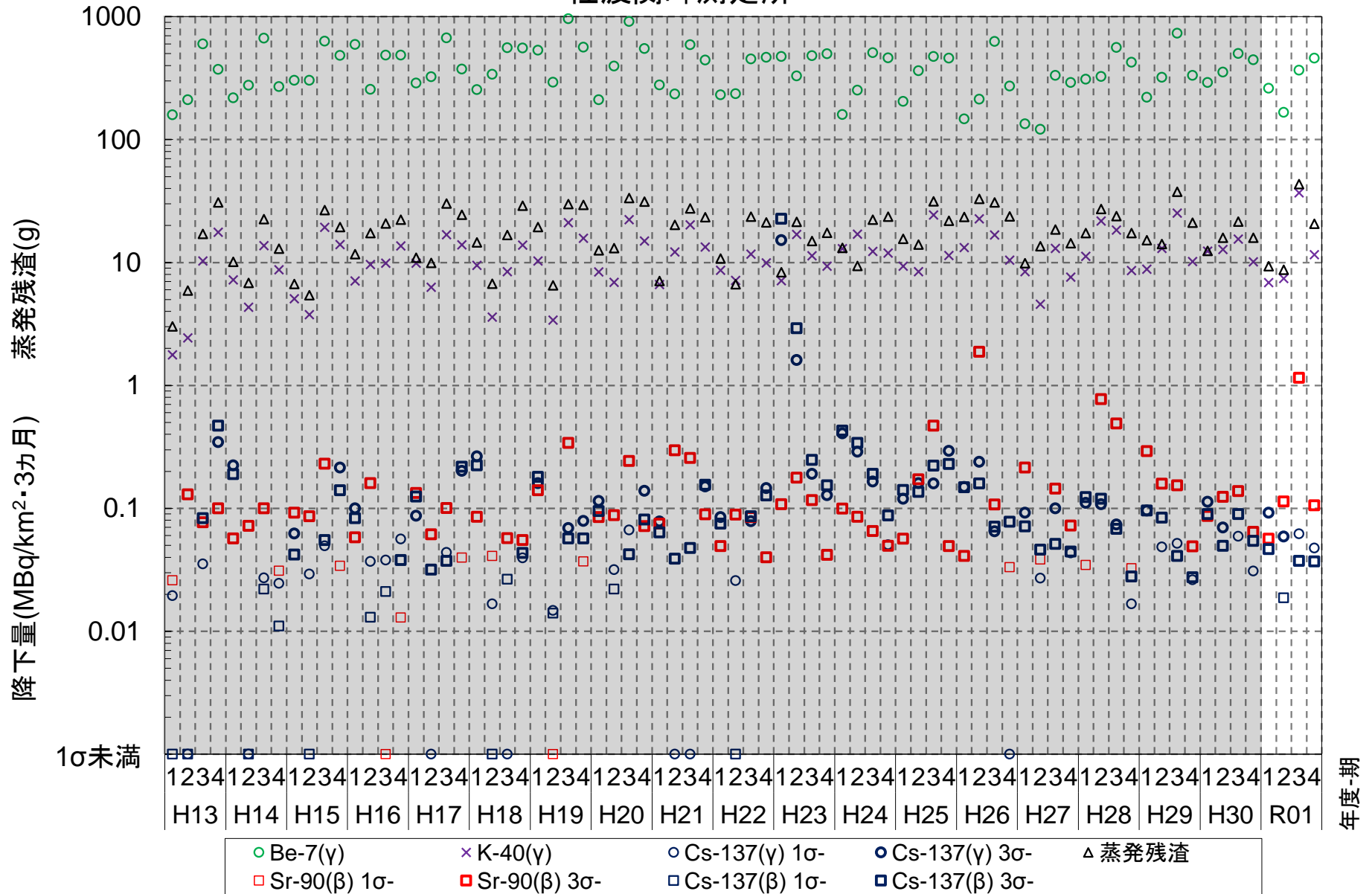
(単位: MBq/km²・3ヶ月)

採取地点	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
隠岐	H31/3/22-6/28	(< 0.2)	(< 0.07)	130±2	0.13±0.019	0.058±0.0089
	R1/6/28-9/27	(< 0.1)	(< 0.07)	110±1	0.14±0.021	0.027±0.0078
	R1/9/27-12/26	(< 0.2)	(< 0.07)	340±6	0.20±0.021	0.042±0.0095
	R1/12/26-R2/3/19	(< 0.2)	(< 0.08)	430±4	0.056±0.015	0.053±0.0099
五島	H31/3/29-6/19	(< 0.07)	(< 0.06)	420±3	(< 0.05)	0.043±0.0083
	R1/6/19-9/24	(< 0.2)	(< 0.08)	220±2	0.12±0.020	(< 0.03)
	R1/9/24-12/20	(< 0.1)	(< 0.06)	270±5	(< 0.05)	(< 0.03)
	R1/12/20-R2/3/10	(< 0.08)	(< 0.06)	510±4	0.047±0.015	(< 0.03)

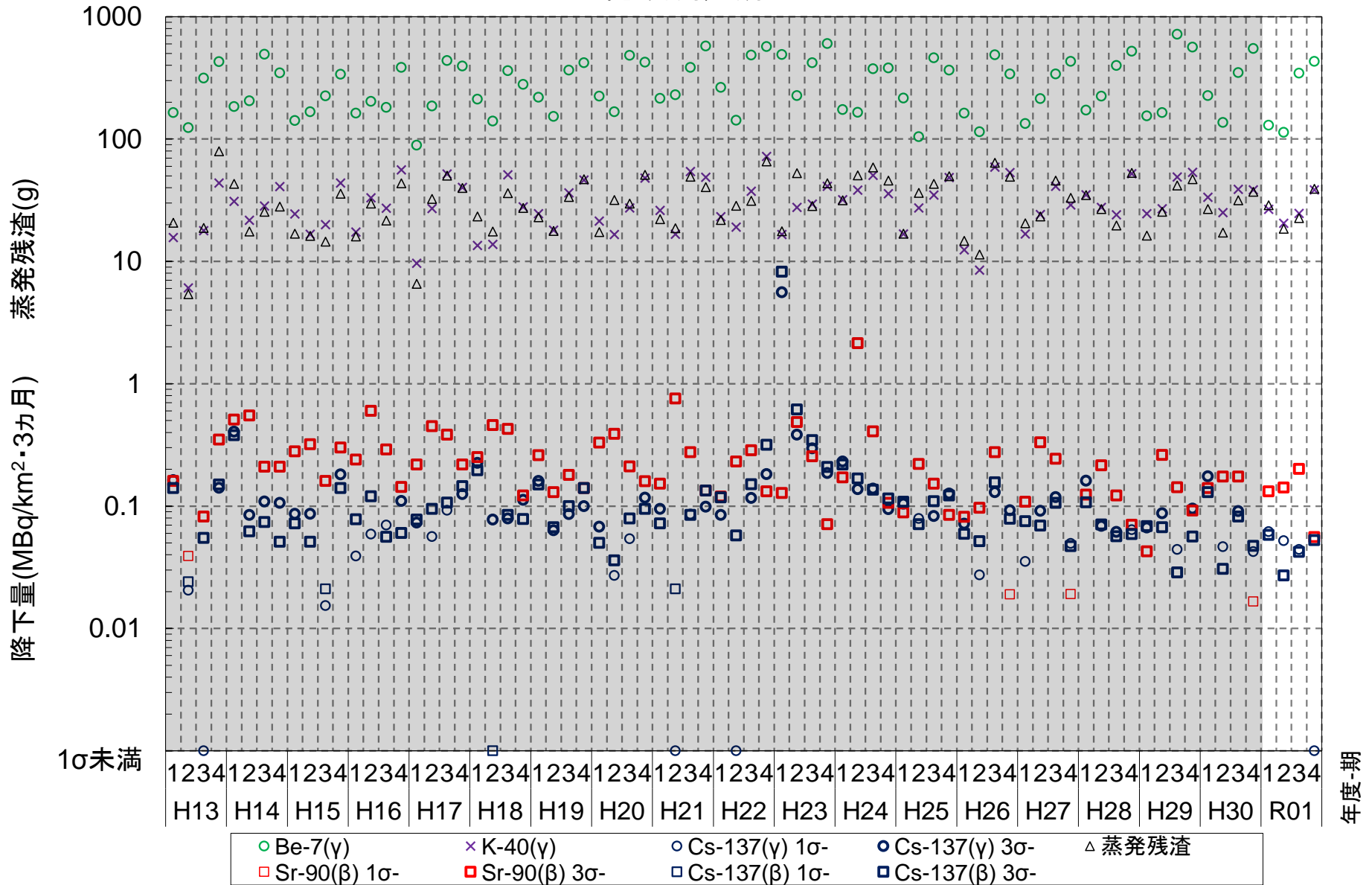
大気降下物 利尻測定所



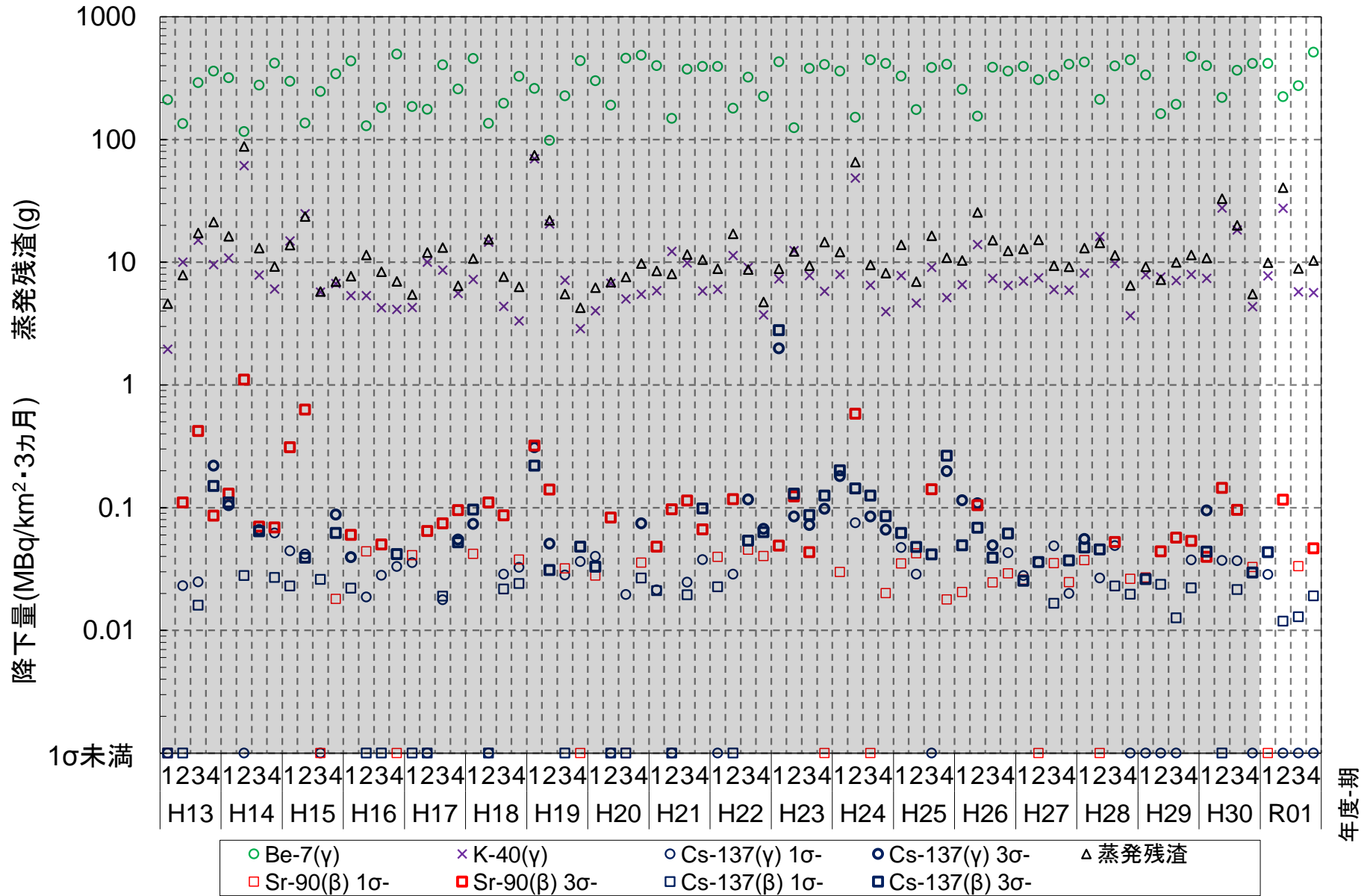
大気降下物 佐渡関岬測定所



大気降下物 隠岐測定所



大気降下物 五島測定所



土壌

γ線スペクトロメトリー

単位: Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果			比較対象①			比較対象②		
		令和元年6月 - 9月			平成28年6月 - 9月			平成22年6月 - 9月		
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
竜飛岬	上層	ND	30 ± 0.5	ND	ND	29 ± 0.6	ND	ND	37 ± 0.6	ND
	下層	ND	26 ± 0.5	ND	ND	30 ± 0.6	ND	ND	42 ± 0.7	ND
対馬	上層	ND	1.3 ± 0.24	ND	ND	1.4 ± 0.33	ND	ND	1.8 ± 0.29	ND
	下層	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
五島	上層	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	下層	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

上層は0-5cm、下層は5-20cm

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

土壌

放射化学分析

単位: Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果		比較対象①		比較対象②	
		令和元年6月 - 9月		平成28年6月 - 9月		平成22年6月 - 9月	
		⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
竜飛岬	上層	5.0 ± 0.26	24 ± 0.5	8.2 ± 0.25	23 ± 0.4	12 ± 0.4	25 ± 0.5
	下層	5.9 ± 0.28	23 ± 0.5	8.8 ± 0.26	24 ± 0.5	9.9 ± 0.37	27 ± 0.5
対馬	上層	0.32 ± 0.084	1.4 ± 0.11	0.75 ± 0.084	1.2 ± 0.11	0.93 ± 0.13	1.6 ± 0.12
	下層	0.30 ± 0.084	0.60 ± 0.078	0.35 ± 0.072	0.83 ± 0.092	0.30 ± 0.088	0.55 ± 0.076
五島	上層	0.39 ± 0.088	0.53 ± 0.076	0.35 ± 0.060	0.67 ± 0.083	0.31 ± 0.084	0.60 ± 0.080
	下層	ND	0.43 ± 0.067	0.22 ± 0.054	0.49 ± 0.075	ND	0.47 ± 0.074

上層は0-5cm、下層は5-20cm

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して、測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

土壌

(単位: Bq/kg乾土)

採取地点	採取深度	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
			^{134}Cs	^{137}Cs	^7Be (参考)	^{90}Sr	^{137}Cs
竜飛岬	上層	R1/7/11	(< 1)	30±0.5	(< 9)	5.0±0.26	24±0.5
	下層		(< 0.9)	26±0.5	(< 8)	5.9±0.28	23±0.5
対馬	上層	R1/6/20	(< 2)	1.3±0.24	(< 20)	0.32±0.084	1.4±0.11
	下層		(< 1)	(< 0.7)	(< 10)	0.30±0.084	0.60±0.078
五島	上層	R1/6/18	(< 1)	(< 0.7)	(< 9)	0.39±0.088	0.53±0.076
	下層		(< 0.9)	(< 0.6)	(< 8)	(< 0.3)	0.43±0.067

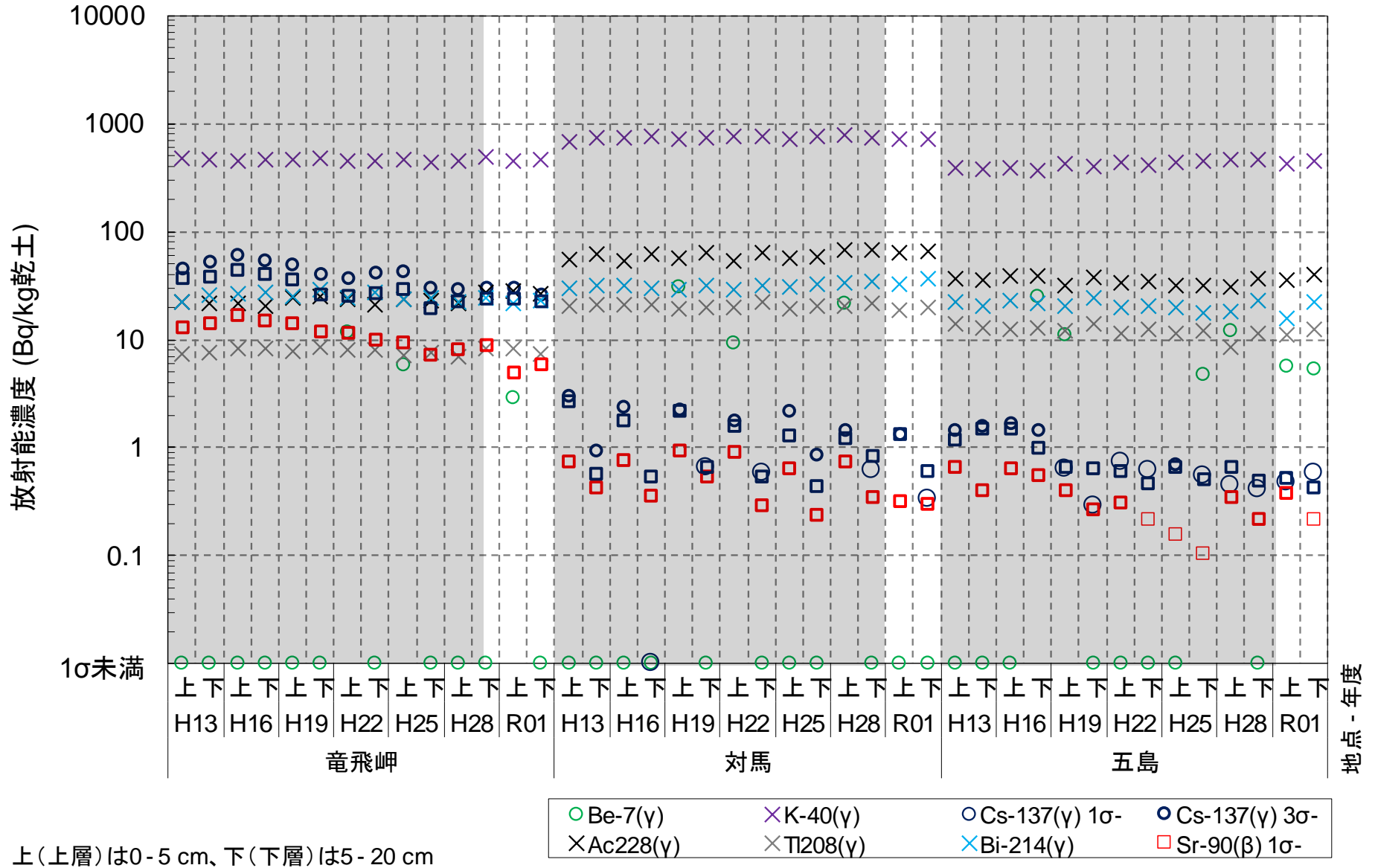
上(上層)は0 - 5 cm、下(下層)は5 - 20 cm

放射化学分析は、 ^{134}Cs と ^{137}Cs を区別して測定できないため、試料中に ^{134}Cs が含まれている場合、 ^{137}Cs 放射能濃度に ^{134}Cs 寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

^7Be は自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

土壤



上(上層)は0-5 cm、下(下層)は5-20 cm

陸水

γ線スペクトロメトリー

単位: mBq/L

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和元年6月 - 9月			平成28年6月 - 9月			平成22年6月 - 9月		
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
竜飛岬	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
対馬	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
五島	ND	ND	41 ± 1.8	ND	ND	36 ± 2.6	ND	ND	9.7 ± 1.6

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

放射化学分析

単位: mBq/L

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和元年6月 - 9月		平成28年6月 - 9月		平成22年6月 - 9月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
竜飛岬	1.0 ± 0.12	ND	1.5 ± 0.13	0.16 ± 0.039	1.6 ± 0.14	ND
対馬	1.7 ± 0.14	ND	1.4 ± 0.13	0.19 ± 0.044	2.0 ± 0.16	ND
五島	1.3 ± 0.12	0.14 ± 0.041	1.1 ± 0.12	0.12 ± 0.037	1.6 ± 0.14	ND

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して、測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

陸水

(単位: mBq/L)

	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		^{134}Cs	^{137}Cs	^7Be (参考)	^{90}Sr	^{137}Cs
竜飛岬 増川川	R1/7/11	(< 0.4)	(< 0.3)	(< 3)	1.0±0.12	(< 0.2)
対馬 日掛ダム	R1/6/20	(< 0.5)	(< 0.3)	(< 4)	1.7±0.14	(< 0.2)
五島 繁敷ダム	R1/6/18	(< 0.3)	(< 0.3)	41±1.8	1.3±0.12	0.14±0.041

放射化学分析は、 ^{134}Cs と ^{137}Cs を区別して測定できないため、試料中に ^{134}Cs が含まれている場合、 ^{137}Cs 放射能濃度に ^{134}Cs 寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

^7Be は自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

